

未就学児・小学生の交通事故について

川越 Japan C1252727 山本結菜

A) 他チームの発表を聞いて

自分たちのチームにない解決策の提案をしていて、参考になったチームは「チーム Variety」と「頭文字 IKT」であった。「チーム Variety」では自転車の事故や、未就学児・小学生の飛び出し事故についての解決策を考えていた。私はこのチームの「ポスターや看板などで注意を呼びかける」という解決策が参考になった。また、「頭文字 IKT」は自転車事故について課題を設定していた。原因を子供は標識を見ていないという視点ではなく、標識の意味を理解していないという視点で考えており、その解決策として「交通安全教室で標識の意味を説明する」と提案しており、参考となった。

B) 地方都市における交通の問題を総合的に解決するための自分の意見

自分たちのチームでは未就学児・小学生の交通事故が多いという点を問題とし解決策を考えた。

問題の原因としては、「感情のコントロールができず、衝動的な行動をとってしまう」「一点に集中しがちで、安全確認ができない」「視野が狭く、視覚・知覚機能が十分に備わっていない」という三つの子供の特性、ドライバーの安全不確認の二つが原因だと考えた。しかし「チーム Variety」と「頭文字 IKT」の発表を踏まえて、「子供たちへの教育が足りない」「標識を見ていない、また標識の意味を理解していない」の二つを原因に追加する。

これらを踏まえると課題は「子供の交通意識を向上させ、未就学児・小学生の交通事故件数を減少させるためには」「ドライバーが取り締まりがなくても安全運転を心がけるためには」「事故が減少する安全な道路環境を形成するためには」「子供たちにも標識を理解してもらうためには」の四つが設定される。

これらの課題を解決するためには、子供に完璧な行動を求めないことや取り締まりに頼らない、道路環境の改善が大切な視点になってくると思われることから、ビジョンとして「子供の未熟さを社会全体で補い、取り締まりがなくても道路環境や標識により自然と安全行動ができる交通社会」を設定した。チームで検討した際はビジョンを「子供の注意力や判断力に依存せず、社会全体で子供の命を守る交通環境をつくること」としていたことから、人の特性を理解した環境整備の視点が追加されたことになる。

このビジョンを踏まえて解決策を考えると六つあげられる。一つ目はポスターや看板などで注意を呼びかけを行うことだ。具体的には「止まれ・確認」「この先交差点注意」「自転車・歩行者飛び出し注意」「ここで一時停止」などを知らせるポスターや看板を設置する。ポスターや看板を設置することにより、目からの情報を得ることが可能となる。そのため、車も歩行者も安全な行動を取るようになると考える。二つ目は交通安全教室で重要な標識を説明して理解してもらうことだ。特に止まれや横断歩道の標識の意味を強調して説明し、理解してもらう。これにより、小学校低学年でも理解しやすい安全対策を実施することができ、飛び出しや確認不足による事故の減少が効果としてあげられると考える。三つ目は Good Driver 制度だ。この制度では制限速度を守った人に1回1ポイント付与し、そのポイントがたまるとガソリンの割引券を配布する。これにより交通安全の意識が高まりスピード違反等による交通事故が減少するという効果が期待される。四つ目は子供が主役の逆交通安全教室を行うことだ。まず、学校の授業の一環として小学生が“危険探し町探検”を行う。そこで見つけた危険を授業参観の際に親に発表する。また、地域活動の一環として地域の方たちにも発表する。これにより子供と大人の間で共通認識が生まれるという効果と、市区町村別で危険箇所を子供と大人で共有できるという効果が期待される。五つ目はスタントマンによる交通安全教室を行うことだ。市区町村で集まり、スタントマンによる交通安全教室の普及率を高め、多くの子供たちに交通事故の危険性を伝えることを狙いとして行う。これにより、交通事故の危険性を実感することができ、安全行動を心がけるようになると考える。六つ目は子どもについて知る会を開催することだ。この会では未就学児の親を対象に子ども目線を体験してもらったり子どもの特性についての講義を開催する。これにより、未就学児の特性への理解が広がり交通事故を未然に防ぐ効果が期待されると考える。

「チーム Variety」と「頭文字 IKT」の二つのチームの解決策を参考にしたことにより自チームでの検討時に加えて、道路改善による交通意識の向上と子供の交通意識の向上がより期待できるようになった。ただし、慣れによりポスターや看板は効果が低下する恐れや、地域全体で危険区域の共通認識をもつことが難しいという課題があげられる。これらの課題を解決し未就学児・小学生の交通事故を減少させるためには、学校・家庭・地域の連携を強化し、地域全体で安全行動を心がける必要があると考える。